

石川町資源調査調書

通し番号	105	整理番号	9	-	004	作成	平成19年2月
名 称	アカハネンブツオド 赤羽念仏踊り					項 目	祭礼
管 理	住 所	石川町大字沢井地内					
	連 絡 先	赤羽区長					
	管理者及び所有者						
概 要	いつの頃から始まったかは不明である。毎年赤羽区の青年により土用3日前から3日間行われていたが、今は初日を7月の第3か第4の日曜日にし、村境などを一日中回り歩き、2日と3日目は夕方に神社で行われている。 初日は、村境や田ん圃への入り口にしめ縄を張り、浴衣姿の青年4人一組になり、太鼓を腰の前に下げ、細いバチで太鼓をたたきながら「なーも だぶつ」と唱えながら村境などを簡単な踊りの所作をやりながら回って歩く。初日には、上区と下区に分かれ当番の宿ではお嫁さんたちがぼたもちを作り神社に奉納する。 昔から虫除けや五穀豊穡と疫病除けなどの行事として伝えられている。						
参考文献							
関連項目							
備 考							
写真及び位置図等							
 全 景		 位置図					

石川町資源調査調書

通し番号	106	整理番号	9	-	005	作成	平成19年2月
名 称	ヤクモジンジャサイレイ 八句毛神社祭礼					項 目	祭礼
管 理	住 所	石川町字下泉地内					
	連 絡 先	TEL 0247-26-7534					
	管理者及び所有者	宮司 吉田英高					
概 要	夏の訪れを告げる八句毛神社(きゅうり天王祭)は、豊作や健康・安全を願い,地元の人たちが手にきゅうりを持ち、お参りにやってくる。 伝説によると、今から二百数十年前、同地方に疫病が発生した時代があり、これは当時「牛頭帝王」を祭った岩瀬神社のあたりからということで、キュウリをそなえて供養したところ疫病がなおったという。そこで、現在でもキュウリを二本そなえ、参拝したあと一本のキュウリをわが家に持ち帰り魔よけにするという。						
参考文献	わたしたちの石川町(福島県教育委員会)						
関連項目	八句毛神社(4-002)						
備 考							

写真及び位置図等



全 景



位置図

石川町資源調査調書

通し番号	107	整理番号	9	-	006	作成	平成19年2月
名 称	ボバタ 母畑のささら					項 目	祭礼
管 理	住 所	石川町 母畑地区					
	連 絡 先						
	管理者及び所有者						
概 要	・上母畑のささら（町指定文化財） 伝説では、桓武天皇の延暦24年から始められたと言われている。特徴として、女性は参加しない習慣がある。 ・下母畑のささら(町指定文化財) 長石田地内にある熊野神社に、毎年旧12月に各家で収穫したものを持ち寄って、神前に供え豊作の感謝をし、翌年の豊作を祈る行事である。 ・北山のささら(町指定文化財) はじめられた時期は不明であるが、伝承によれば、石川の殿様に羽貫田集落を中心として「北山のささら舞」を献じた時から恒例となったということである。津島神社御神体(スサノオノミコト)を祭り村内安全・五穀豊穰・無病息災を祈願し、旧6月15日に天王祭として「ささら舞」を奉納してる。内容は獅子舞、神楽の舞、臼鍬の舞、四方固からなっている。 ・湯郷渡のささら(町指定文化財) 伝承によれば、元禄時代以前から始められたと伝えられている。八幡神社に奉納するため、獅子舞、四方固、御神楽舞、白鍬踊などを舞うものである。昭和27年以降奉納は中断されていましたが、昭和48年に保存会が結成され、奉納が再開された。						
参考文献	石川町史 石川町の文化財						
関連項目							
備 考	町指定無形民俗文化財						
写真及び位置図等							